

域・活

いき・いき れんけい

連携

2023年8月発行

特集

静岡県健康福祉部 健康政策課
静岡社会健康医学大学院大学

静岡県における
健康課題の「見える化」と
最先端の
社会健康医学研究



特集：静岡県健康福祉部 健康政策課
静岡社会健康医学大学院大学

静岡県における 健康課題の「見える化」と 最先端の社会健康医学研究

静岡県では、県の主導で県内35市町全ての特定健診データを統合し、その解析結果をマップ化することで、健康課題の「見える化」を実現した。また、静岡社会健康医学大学院大学と協働で特定健診や医療・介護レセプトなどの医療ビッグデータ解析研究、地域住民を対象とした大規模コホート研究を進めるなど、県民の健康づくりに役立つ取り組みを行っている。この取り組みについて静岡県健康福祉部健康政策課の平山 朋さん、宇津木 志のぶさん、静岡社会健康医学大学院大学の田原 康玄研究科長に話を伺った。

【取材日：2023年 6月 6日】 ＊記事内容、所属等は取材当時のものです。



静岡県健康福祉部
健康政策課
平山 朋さん



静岡県健康福祉部
健康政策課
宇津木 志のぶさん



静岡社会健康医学
大学院大学 研究科長
田原 康玄 教授

健康長寿日本一の奪還に向けた取り組み

静岡県は日本のほぼ中央に位置し、海や山、湖など自然が多く気候も温暖で、地場食材にも恵まれた土地柄である。以前から県民の健康意識が高く、厚生労働省が発表した都道府県別の健康寿命では、2010年には女性1位、男性2位になるなどトップクラスを誇ってきた。しかし、2019年には男女共に5位になったことから、健康長寿日本一を奪還すべく「ふじのくに健康長寿プロジェクト」を推進している。平山さんは、「全国5位でもトップレベルといえますが、健康寿命の更なる延伸を目指して、健康課題の『見える化』を進めています」と話す。静岡県では県内に本部を置く全ての医療保険者に協力を要請し、2008年より特定健診のデータを収集している。初期は市町国保と国保組合のデータのみだったが、2010年から共済組合、健保組合、協会けんぽの協力も得られ、2016年度には68万人、2020年度には72万人の膨大なデータを統合することができた。このようなビッグデータを分析・マップ化することで、高い精度で健康課題の「見える化」を実現した。

3つの方法で健康課題を提示

県が掲げる健康課題の「見える化」の取り組みは大きく3つ。1つ目は特定健診データの分析から、市町ごとのメタボリックシンドロームや糖尿病・高血圧などの生活習慣病の有病率、習慣的喫煙者の頻度などをマップ化し、地域ごとに健康課題を明確化する取り組みである(図1)。マップ化により、例えば高血圧の有病者は県東部で多いことが分かった。2つ目は、市町別に死因を分析することで、それぞれの市町が優先的に取り組むべき疾病対策や健康増進施策を死亡率から提示する「市町別標準化死亡比(SMR)」の算出(図2)。宇津木さんは、「これは県独自のアイデアで作成したグラフで、死亡数を面積で示し、高さをSMRで示しているため、全国基準より超過死亡が多い疾患が一目で分かります。例えば、静岡県の総死亡数を見るとがんが最も多く、2番目は心疾患ですが、全国基準と比べると脳血管疾患の死亡数が多いことが分かります」と説明する。3つ目は「お達者度」の算出である。65歳以上の高齢者が要介護や寝たきりにならずに

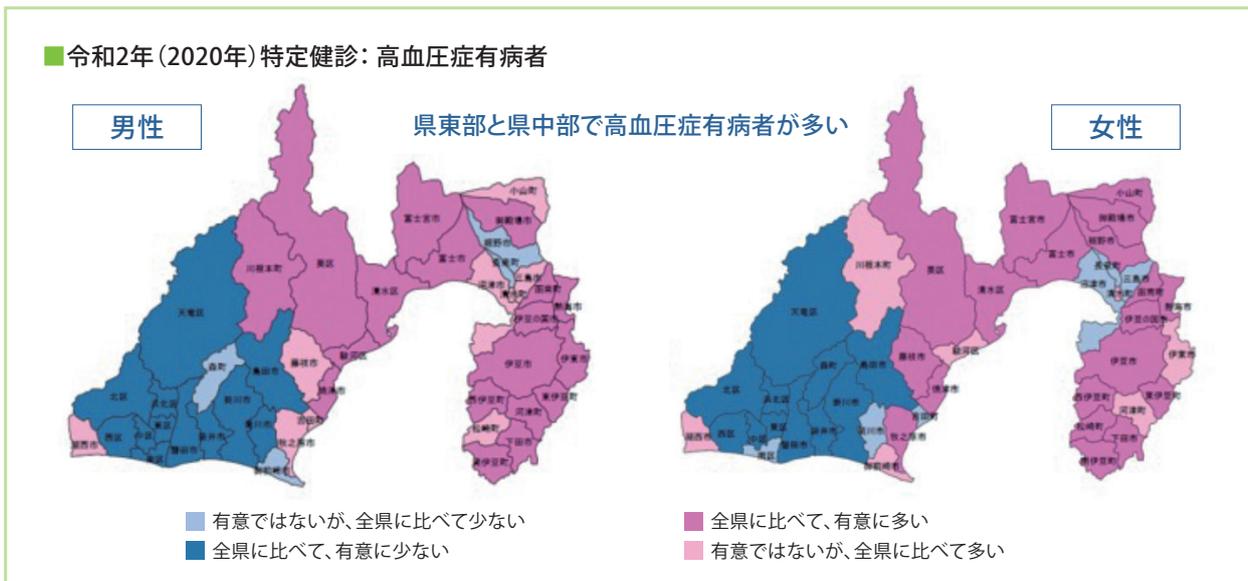


図1. 県内の高血圧症有病者数をマップ化して市町健康課題を見る化

令和2年度特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書より抜粋

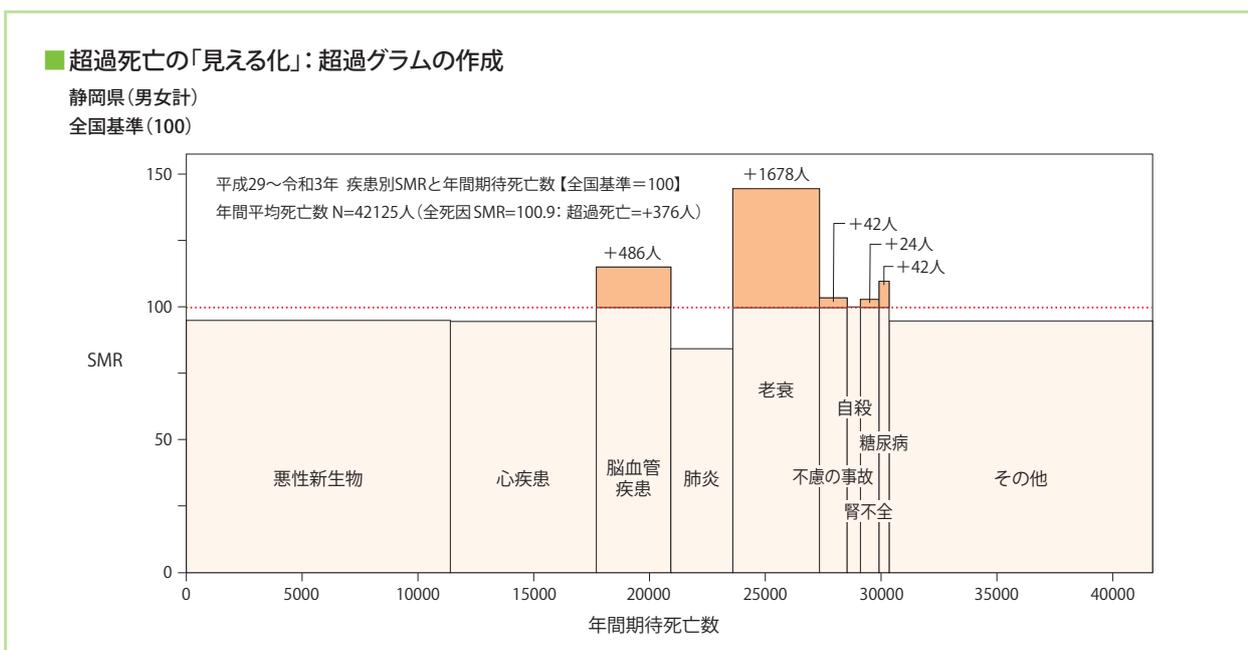


図2. 市町別に標準化死亡比(SMR)を算出したグラフの一例

静岡縣市町別健康指標(Vol.32)(市町別・傷病分類別SMR)より抜粋

自立している期間をお達者度として提示した。このような一連の「見える化」の取り組みについて、「市町の情報を開示して反対がないかと他県から聞かれることがありますが、『見える化』した結果を毎年市町にお返することで、昨年は高血圧が多い方から3番目だったが今年は改善したなど、改善への取り組みのモチベーションにもつながっているようです」(平山さん)。

社会健康医学の最先端の 教育研究拠点の設置

健康寿命を延伸するためには、エビデンスに基づいた医療・健康づくり施策の推進と、県や市町、医療機関など様々なポジションで保健・医療に関わる人材の育成やレベルアップが欠かせない。そこで従来の公衆衛生学に

医療ビッグデータ解析やゲノム医学などの新しい学問を上乘せした社会健康医学の教育研究拠点として、静岡社会健康医学大学院大学（School of Public Health: SPH）を2021年に設置。静岡県民はもとより、広く人類の健康長寿の延伸に向けた教育研究に静岡県と共に取り組んでいる。田原研究科長は、「この領域の研究は大学主体で行われてきましたが、それだとしても研究の規模が小さくなってしまいます。県と連携し、かつ県内35市町と足並みをそろえて研究に取り組むことで、大規模な研究から確度の高い成果を出すことができるようになります。また、研究の成果を社会に実装する上でも、県や市町との連携は欠かせません。このような教育研究の環境が整っているのは全国で静岡県のみですが、今後、他の都道府県にも広がることを期待しています」と話す。

静岡県と静岡SPHが連携した健康長寿実現への取り組み

静岡県と静岡SPHは、健康寿命の延伸につながる様々な研究や事業を市町や県民の協力を得て実施している。その一つが静岡多目的コホート研究事業。地域住民を長期間追跡することで、疾患の発症と関連する生活習慣や臨床的な特徴を明らかにするコホート研究から、静岡県で多い脳血管疾患や、人口の高齢化によって顕在化した認知症やフレイルなどの予防に資する知見を得ることを目的としている。2021～22年度は、伊豆半島南部（賀茂地域）でコホート研究「かもけん!」が行われた。この地域では高血圧者が多く脳卒中の発症率も高いことから、家庭血圧の測定や高血圧の危険因子である塩分の摂取量を測る24時間蓄尿検査、頭部MRIなどを行い、高血圧や脳卒中の予防のためのエビデンスを蓄積している。コホート研究は単なる研究ではなく、研究で得られた成果を地域に還元することも大切な使命である。高血圧や脳卒中だけでなく、高齢化率の高い賀茂地域において重要なフレイルも含めて、予防に活用できる教材の提供も進めている。その1つである「かもけん!体操」は、賀茂の地域住民の体力特性に合わせた筋力トレーニングプログラムであり、DVDやインター

ネットを通じて広く配信している。2023年度からは同様の取り組みを袋井市に展開し、向こう10年程度をかけて県内全域に拡大していく計画となっている。

■「かもけん!」の研究結果に基づいて、賀茂地域の住民向けに作成された「かもけん!体操」



<https://www.youtube.com/watch?v=c5sAU35CBso>

県内の中小企業の従業員を対象とした取り組みとして、家庭での血圧測定の普及を県と静岡SPH等とで進めている。「中小企業の従業員を対象に、血圧を測ることから高血圧対策を始めることが狙いです。家庭で測った血圧の値が非常に高いにも関わらず未治療のケースが相当数あることが分かり、今後はこうした方々に直接アプローチするような仕組みづくりが必要だと感じています」（田原研究科長）。

これからの歩み

田原研究科長は「コホート研究は、電気やガス、水道と同じ社会のインフラであり、常に国内のどこかで最新のコホート研究が走っていないと、社会の要請に応え、国民の生命を守ることができません」と言う。また、「コホート研究と医療ビッグデータ解析研究とは車の両輪であり、それぞれの特性を活かした研究が真に有益な知見を得る上で大切です」とも言う。このようなアカデミズムを持ちつつも、県立の大学らしく県や市町と密に連携しながら研究と人材育成を進め、研究成果の還元を進める静岡SPHと静岡県との一体的な取り組みは、高血圧や脳卒中のみならず様々な疾患の予防の高度化につながるであろう。また、一連の成果は、循環器病計画や国保事業に応用的に展開されることも大いに期待される。